

【一般質問】同朋社会をめざす会 渡邊 学 議員

「見真額」問題の取り組みについて

浄土の願生者として愚禿釋親鸞の名のりで歩んでくださったのが我が宗祖、親鸞であります。2023年の御誕生850年、立教開宗800年をお迎えするにあたり、親鸞の誕生、立教開宗の意義を考える機縁を私もいただけてまいりたいことは、総長と同感であります。

総長は、第67回常会において釋氏議員の「見真額」問題の質問に対し、幕末の頃からの真俗二諦の教義の展開に触れられ、「親鸞聖人の教えとも異なるものであり、はっきりと誤りであったとしなければなりません」と判断し「見真額」については、現時点では、下すとも、下さないとも判断をしておりませんが、まずは再び悲しい歴史を繰り返すことのなきよう、「見真額」を通して慙愧の上に歴史を直視し、学んでいく必要があると考えております」と答弁を結んでいます。言うまでもありませんが「見真額」は直接に大師号の問題です。「大師号」について、宗務総長が発行者である『靖国問題学習資料集』で「明治以降、教団は「真俗二諦の宗風」を積極的に説き、天皇制国家と国家神道に迎合することによって、教団の維持と拡大を図りました。その証が「見真」「慧燈」の大師号です」と明確に表明しています。この問題に関しては「見真額」に関する学習資料集が発行され、学習会等の取り組みが見られましたが、額を掲げる御影堂、真宗本廟参拝者にはその取り組みが見うけられません。先ずは御影堂において見真額、大師号の説明板の設置、またリーフレットを作成し、「見真額、大師号には問題がある」と、宗門の犯した誤りを広く表明することから始めなければならないのではないのでしょうか。説明板、リーフレットの作成についてのお考えをお聞かせください。

併せて、真俗二諦の誤りを答弁くださった総長が、いかなる慶讃法要をお勤めするのですか。真俗二諦の証である「見真額」の下で、見真大師の御誕生の法要を勤めるのですか。愚禿釋親鸞の法要をお勤めください。お考えをお聞かせください。

『靖国問題学習資料集』の頒布、出版について

『靖国問題学習資料集』は、教師取得の学習資料として作成されたと聞き及んでいますが、各種学習に資する非常に有用な資料集であると思料いたします。広く頒布、出版する方途をお考えいただけないでしょうか。お考えをお聞かせください。

新型コロナウイルス感染症の対応について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本山、教区、組、寺院のほとんどの行事が中止、延期をして対応してきました。現在は収束の兆しもありますが、樂觀できる状況ではありません。今後もその予防策として密閉・密集・密接を避ける等、「新しい生活様式」を継続しなければならないことは容易に予想出来ます。

真宗の教化は、師、友とのであい、寄り合い、談合（座談）を大切にして伝統されてきました。膝を突き合わせて、ということを経度も聞いてきました。

しかし、このたびの新型コロナウイルス感染症の拡大は、私達の生活様式とともに寺院活動を一変させました。法座や同朋会、研修会の持ち方、また報恩講はじめ葬儀、

宗議会 一般質問

法事の勤め方など、各寺院が不安を抱えながら教化活動を暗中模索しています。あわせて、激減する法事が寺院経済を脅かし、法座が持たれないことで講師の方々も場がなくなり、非常に厳しい生活との声も聞かれます。支援もありません。早急に状況の把握と支援等が望まれます。お考えをお聞かせください。

総長は、「感染症拡大がおさまった後、全面展開が可能となるよう、いまできることを精一杯行わせていただく所存」と述べられていますが、感染症の終息（収束）は判断基準と、誰が判断されるのですか。感染が収まらない場合の事業展開をどのようにお考えですか。

また、今後「新しい生活様式」がスタンダード化する中、特に宿泊を伴う本廟奉仕、教師修練、各研修会、諸行事、はどのような方途を考えておられますか。お聞かせください。

以上

【答弁】望月慶子 参務

私からは、「見真額」「大師号」について、新型コロナウイルス感染症への対応についてお答えします。

まず、「見真額」「大師号」についてお答えします。

「見真額」「大師号」の説明板・リーフレットの作成については、「見真額」に関する学習資料集を通しての学びと議論が、今後ますます全国の教区・組に広がり、課題の共有が十分に行き渡ったうえで検討すべき事柄であると考えております。

なお、慶讃法要につきましては、言うまでもなく、宗祖親鸞聖人の御誕生と立教開宗の意義を確かめることをとおして、私たち一人ひとりが「人と生まれたことの意味」をたずねる機縁となる法要としてお勤めさせていただく所存であります。

次に、新型コロナウイルス感染症への対応についてお答えします。

このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大と、それに伴い所謂「新しい生活様式」が求められる中で、これまで宗門が大切にしてきた膝を突き合わせての「寄り合い」・「座談」の場を開くことが容易ならざることとなっている現状は、議員ご指摘のとおりであります。

この様な状況下にあっても、「何とか仏法を伝える場を開きたい」、「ご縁を大切にしたい」との思いで、様々な創意工夫をされている教区や寺院も多数ございます。そのように、悩みながらも歩んでおられる教化の具体的な事例を他の寺院が参考にできるように情報発信することは、真宗教化センター設立に願われた宗派の大切な仕事であり、具体的な支援の一つの形であろうと考えます。

現在、「しんらん交流館ホームページ 浄土真宗ドットインフォ」において、各地の教化活動を紹介しておりますが、このたびの新型コロナウイルス感染症の影響下にあつて、困難の中、様々な工夫されている教区、組、各寺院・教会、別院の教化情報を収集し、その発信に努めてまいります。

ある寺院では、学校が開かれないうちで、親御さんからの「ほんのひとときでもいい

宗議会 一般質問

ので、子どもたちをお寺に行かせてほしい」という声に応える形で、時間を限定して、十分な対策をとり、子ども会を開きはじめられました。このように、ニーズを聞き取り、一カ寺一カ寺の状況に応じた教化の形を模索し、寺院と共に歩む「寺院活性化支援」の取り組みの充実を図ることにより、危機的な状況下にある教化の現場の支援につなげてまいり所存です。

さらに、佐々木議員の質問に対してお答えしたとおり、調査の方途はこれから検討することではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響下における寺院状況の実態把握の方途も、今後検討してまいります。

なお、感染症終息の判断基準と誰が判断されるのかについては、日本政府、自治体をはじめ、WHOなどの諸機関の判断を踏まえたうえで、宗門内状況を勘案して内局として判断してまいります。

また、感染症が終息しない場合の事業展開についてのお尋ねですが、このたびのコロナ禍によって、法話のネット配信や子どもたちへの絵本の読み聞かせ動画の配信など、インターネットを活用した新たな取り組みも生まれてまいりました。どのような状況にあっても、一人ひとりへ丁寧に教えを届けるために、不断の努力を続け、柔軟に教化のあり方を模索してまいりたいと考えております。

【答弁】三品正親 参務

私からは、『靖国問題学習資料集』の出版・頒布について、奉仕施設（同朋会館・研修道場・和敬堂）における新型コロナウイルス感染症の対応についてお答えします。

まず、『靖国問題学習資料集』の出版・頒布についてお答えします。

本資料集は、修練生の学びに資するための補助的な役割を荷う資料として編集・配布されているものであります。そのため、修練生に向けた文章の他、凡例に示しているように、現代においては不適切な表現であっても歴史事実を表わす用語としてそのまま記載しています。つきましては、不特定多数の方々に広くお読みいただくために出版、頒布することは考えておりません。

しかしながら、必要とされる方々のために、既に各教区・組における研修会等で活用いただけるよう、宗務機関内においては、本資料集のデータを共有しておりますので、教務所を通じてご活用いただきたいと思います。

次に、奉仕施設（同朋会館・研修道場・和敬堂）における新型コロナウイルス感染症の対応についてお答えいたします。

まずもって、渡邊議員におかれましては、永きに亘り、本廟奉仕をはじめとした奉仕施設における教化事業にご尽力いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、その奉仕施設についてですが、政府から発出された「新しい生活様式」に順応すべく策定された、ホテル・旅館、公民館、飲食、浴場などの業種別感染症対応ガイドラインを基に、「真宗本廟奉仕施設における感染症予防ガイドライン」を作成いたしております。

今後は、このガイドラインに基づき、座談などの伝統されてきた生活様式をできる限り継続した形で、密閉・密集・密接を極力避ける日程や班編成とする他、定員（入

宗議会 一般質問

館者数) の減員、消毒液を各所に設置、検温の実施など、十分な予防対策を講じたうえで受け入れを行う所存です。

なお、ガイドラインにつきましては、同朋会館ホームページでご確認いただけますので、渡邊議員におかれましても、有縁の方々へ周知いただきますようお願いいたします。

以 上